自然との共生と新しい供養の形に挑戦
里山に広がる美しい樹木庭園葬墓地

真言宗豊山派金剛寺「つくば・かすみがうらメモリアルパーク」（茨城県かすみがうら市）

茨城県かすみがうら市の寺院・金剛寺が運営する「つくば・かすみがうらメモリアルパーク」は、自然と共生するというコンセプトのもと、墓石を使わないスタイルで運営されている新しいタイプの霊苑だ。お墓と地域コミュニティの拠点としての役割とを組み合わせることで、地方寺院の新たな可能性を模索している。人口減少や高齢化で苦境に立つ地方寺院のモデルケースとしても注目されている。

＜霊園概要＞
「つくば・かすみがうらメモリアルパーク」
開園：2019年
住所：茨城県かすみがうら市牛渡5187
宗派：真言宗豊山派

高台の駐車場からは、霊園が一望できる。

琉球ガラスの墓誌が輝く「ひかり区画」。

冬でも美しく咲く「バラ区画」。

自然と共生する、新しいスタイル

茨城県の県南に位置するかすみがうら市は、「西の富士、東の筑波」と称される筑波山と、日本で2番目に大きな湖である霞ヶ浦を有する、自然豊かな地域だ。常磐自動車道・土浦北インターチェンジから車で25分ほど走ると、かすみがうら市牛渡（うしわたり）にある「つくば・かすみがうらメモリアルパーク」が見えてくる。美しい里山の風景に囲まれた、畑の中の静かな場所。見渡す限り広がる青い芝生の中で、花々に囲まれて眠ることができる墓苑だ。

墓苑の入り口正面と、墓苑の少し上にある高台に、駐車場が2カ所整備されている。高台の駐車場からは墓園の全体を見渡すことができる。そのため初めての訪問者はこちらの駐車場に案内するようにしているという。風がそよそよと吹き抜ける広々とした空間全体の雰囲気を、まず体感してもらいたいからだ。墓苑の入り口には、モッコウバラのアーチが優雅に架けられている。苑の中央には、噴水と花壇が整然と並び、その背後には、住職の想いが込められた石のモニュメントが静かにたたずむ。墓苑内に墓石が使われていないため、広々とした芝生が広がり、花々が咲き誇り、まるで庭園のような雰囲気を醸し出している。

墓苑の中心部には「ガーデン区画」というエリアがあり、緑豊かな蓮華の形をした芝生が広がっている。このエリアでは、墓石のかわりに、埋葬された方の名前を記したプレートが設置されている。場所と広さによって、2名用、4名用、ファミリー向けの区画がある。ペットと眠れるエリアもある。

長い墓苑の外周に沿って、四季折々の花々が咲き誇る場所にあるのが「ひかり区画」だ。この区画では、墓石のかわりに、青色、オレンジ色、赤色など、琉球ガラスの美しい色彩が、故人の魂を優しく包み込むように、墓誌として使われている。陽の光を浴びて琉球ガラスがきらきらと輝くさまは、故人の優しい魂が宿っているように見え、訪れた人の心を明るくしてくれる。琉球ガラスの大きさは、豊富な種類が用意されている。ファミリータイプの区画では、より多くの故人を一緒に弔うため、琉球ガラスのサイズも大きくなっている。

入り口から右奥には、バラの花々が咲き誇り、甘い香りが漂う「ローズ区画」がある。色とりどりのバラが咲き誇るイングリッシュローズガーデンのような雰囲気で、スタッフの愛情あふれる手入れのおかげで、1年を通して美しい花々を楽しむことができる。そのほか、シンボルツリーのもとで眠れる「木もれび区画」もある。

故人と語らう大切な時間を過ごす場所

この場所を訪れる人とは、一期一会。いつ訪れても、故人を偲ぶ心が安らぐ場所だと思ってほしいという気持ちが、植栽にこだわる理由だ。春になると、まず梅が咲き、桃が続き、桜が咲く。河津桜から始まり、ソメイヨシノ・枝垂れ桜・山桜と続き、初夏の訪れとともに中央の芝生が青々と茂る。秋には紅葉、冬にはスモークツリーが咲き誇るなど、四季折々

ゆったりと過ごすことのできる休憩スペース。

墓苑では、四季折々の植栽を楽しむことができる。

の景色がお参りにくる人の心を和ませる。また、入口付近の藤棚も５月のゴールデンウイークには花々が咲き誇り、その下でゆっくりと休憩できるスペースを用意している。

里山の墓苑のため、線香をあげることはできない。ここは、故人を心の中で偲びながら、ただ静かに故人のために祈る場所になっている。苑内には、休憩できるパラソル付きのテーブルセットが２カ所ある。椅子に座ってゆっくりと自然を眺めながら、故人と語り合う大切な時間を過ごすことができる。墓苑の入り口横まで車を横付けでき、墓地内は起伏が少なく、バリアフリーに整備されているので、車椅子の方も快適にお参りすることができる。また、夜になってもお墓が暗くて寂しい場所にならないようにと、心温まるイルミネーションも毎晩行っている。

墓石を使わないという選択

「つくば・かすみがうらメモリアルパーク」は墓石を使用していないため、外国の庭園のような雰囲気を醸し出している。また、墓石の費用や年間管理料がかからないため、従来のお墓に比べて、費用を大幅に抑えることができるのも、購入者にとって嬉しいポイントになっている。

樹木葬についての定義がない中、「最近の主流である樹木葬は、狭い敷地に小さな墓石が密集しているため、『自然と調和した墓地』という人々のニーズを十分に満たしているとはいえません。この場所に新しい墓苑を設計することになったとき、自然に帰れる・自然の中で眠るまったく新しい墓苑のあり方を思い描きました」「お墓詣りに来るというより、遊びにきたくなるイメージにしたい」「より自然で環境に優しい供養の形を実現した墓苑を目指しました」と、墓苑管理・施行を担当した、寺院コンサルティングの株式会社アレットの岡野史樹代表は語る。

苦境を打破する金剛寺の挑戦

母体となっている真言宗豊山派の獨鈷院金剛寺は、室町時代から牛渡の地を見守り続ける古刹だ。代々の金剛寺の住職は、自然と共に生きることこそが人のあるべき姿と考え、地域の住民と共に田植えや収穫祭など、季節の行事を行ってきた。しかし、地方の寺院は苦境が続いている。実際、茨城県の総人口は2000年に最多の299万人に達して以降、現在まで減少を続けている。国立社会保障・人口問題研究所の推計によれば、今後、人口は急速に減少を続け、2040年には現在から約20％近く減少すると予測されている。地域住民の高齢化と人口流出という課題を解決するために、お寺の役割も変わっていかなければならない。「今の時代のニーズに応えるお墓と、人が集まる仕組みとを作っていく」ための、金剛寺の先進的な挑戦でもある。

お墓の契約者は茨城県内在住者がほとんどだが、最近では自然と共生するという墓苑のコンセプトに共感し、遠方から見学に訪れる人も増えてきた。つくばエクスプレスの開通や品川までの常磐線延長で、東京都内から茨城県へのアクセスが大幅に改善した。電車でお参りに訪れる方には、墓苑最寄りの土浦駅までの無料送迎も行っている。

また、「家」「家族」の形式にとらわれずに、友人やパートナー、愛するペットと一緒に眠ることができるのも、きわめて現代的な取り組みである。日本のお墓の歴史は、時代とともに変化してきた。しかし、形式にとらわれず、故人を心から弔うことこそが本質だという住職の想いがある。「まだまだ試行錯誤の繰り返しです。どのような墓苑が求められているのか、さまざまな人から意見をいただきながら、住職と連携して改善に取り組んでいます」と岡野代表は語る。

里山の空気は澄み渡り、心地よい。里山の景色は、四季折々に移り変わり、いつ訪れても飽きない。つくば・かすみがうらメモリアルパークは、まだ開苑したばかりで、これから草花や樹木が、豊かな表情を見せてくれるだろう。一期一会の出会いを大切に、いつ訪れても、心が洗われるような場所を目指している。

歴史が感じられる、独鈷院金剛寺の本堂。